

令和5年度 環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果共有会 発表資料

活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備“に取り組む	
昨年度から引き続き“環境整備“に取り組む	✓

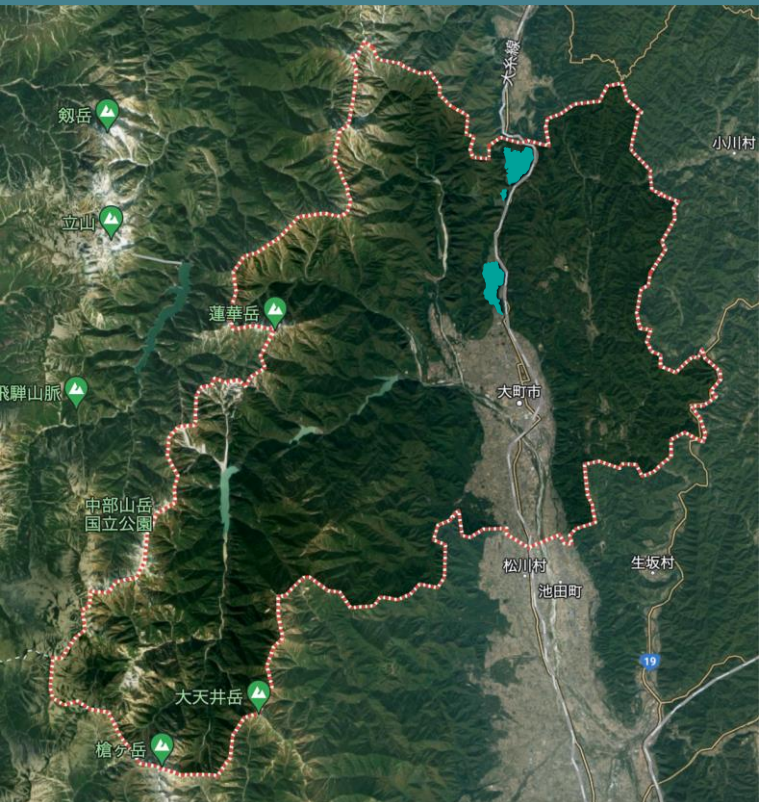
森と湖に囲まれて
きやっきやうふふす子 里山ノエスト2.1

活動地域：

大町市を核とした北アルプス地域の顔が見える経済圏

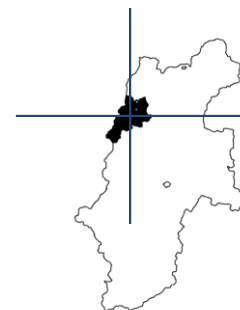


活動団体および活動地域の紹介



大町市

- ・面積：565.15km²
(内可地面積の割合27.2%)
- ・市の西側は3,000m級の山が連なる北アルプス
- ・森林面積：70%
森林面積の7割が落葉広葉樹を主体とする天然生林
- ・市の北部に3つ連なった天然湖・仁科三湖
- ・日本海側の内陸性気候による良質なパウダースノー



👁️ 豊かな自然環境から一年を通して楽しめるアウトドア資源

👁️ **日本一長い信濃川水系の最上流部に位置する**

一方で

- ・人口：25,881人(2017年28,255人)
加速度的に人口減少している消滅可能性都市、高齢化率は38.9%

荒山林業



@arayamaringyo
@gorow1856



木崎湖畔にある大町市の面積の209分の1の面積の持ち山で林業などを営む林家(りんか)今年度湖を起点としたPF“on the Lake”を起ち上げました ↑

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

景色を守り、水を守り、
弱さを分かち合える
地域へのシフト

①

地域の木材の
地域内循環のしくみをつくる

②

湖畔のにぎわいを
つくる

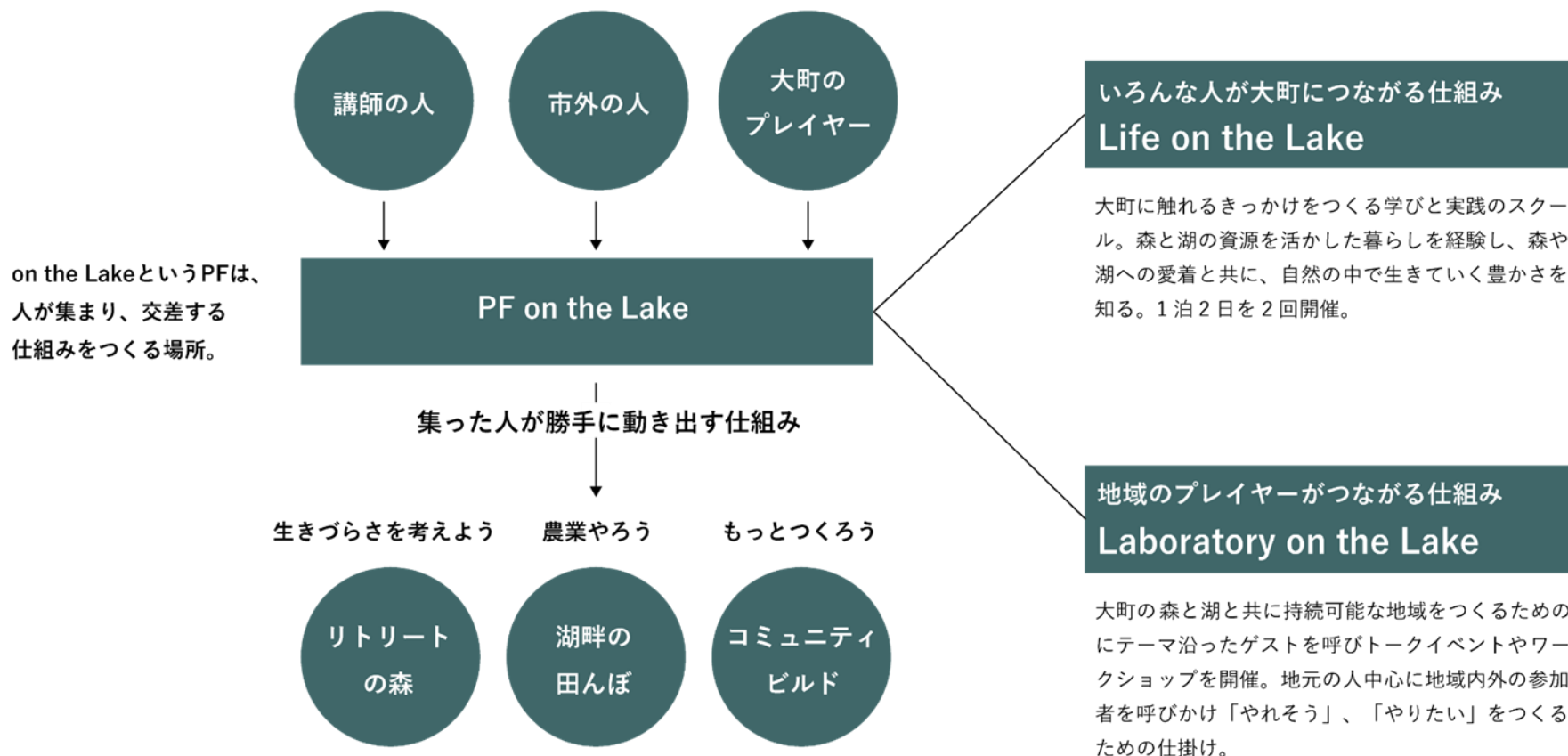
on the Lake

③

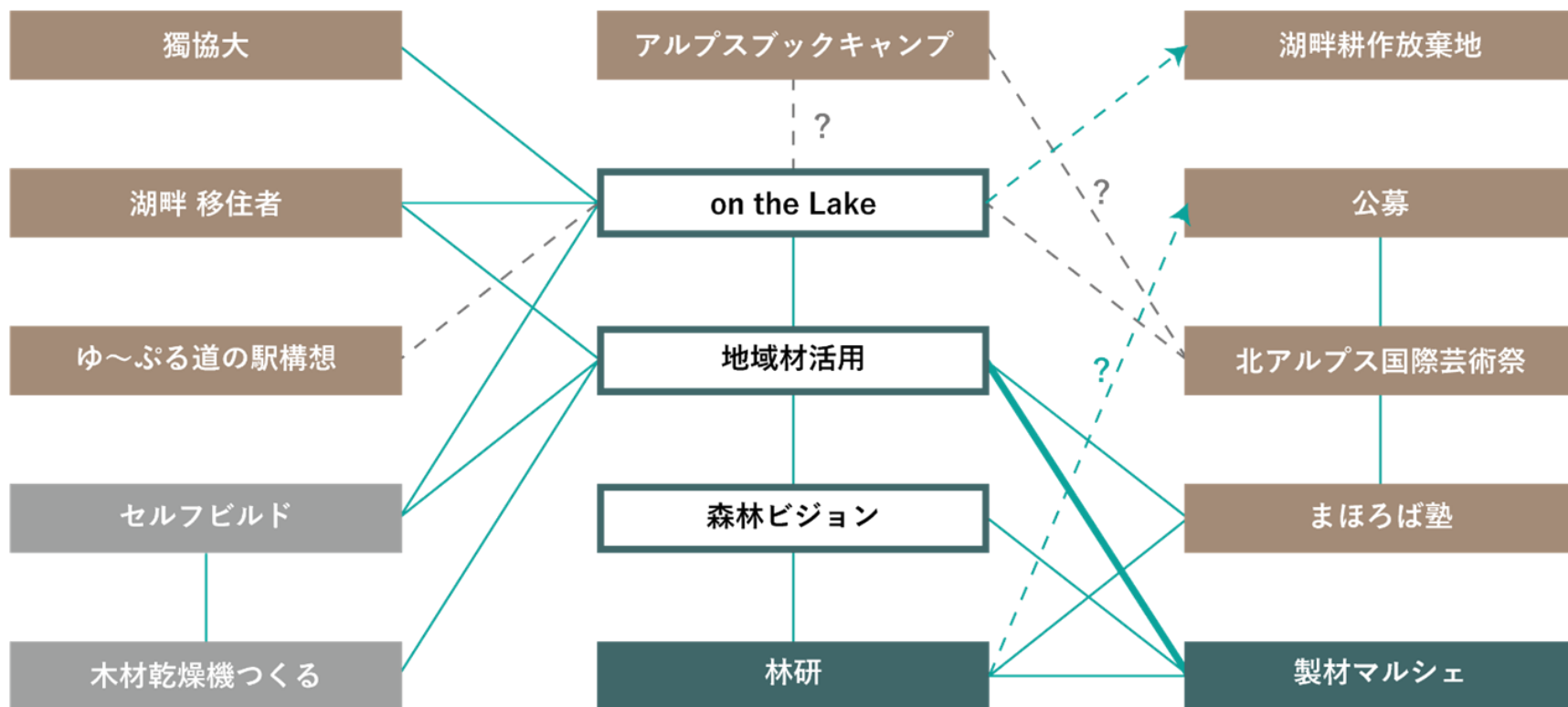
生きづらさを考える
リトリートの森

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

大町の森と湖の豊かさに気づき直す、
PFをつくるための二つの取り組み。



地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿



年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定			◆キックオフミーティング				◆中間共有会					◆成果報告会
① 地域材流通	◆地域材活用の 為の円卓会議 飛騨より広葉樹活用 コンシェルジュ・ 及川さんに来て貰い 意見を貰う (4/28)		◆地域材活用の 為の円卓会議 製材勉強会 (6/9)		◆木工家さん工房新設プロジェクト			◆大町市空き家の学校 (12/9)	◆製材マルシェ (12/3)	◆地域内木工家さん 県補助事業応募		◆ Lakeside woodman's club構築に向けて休眠 預金申請
② on the Lake	◆企画つめ・PR期間			◆Life on the Lake Vol.1 (7/8・9) 夏のほとり	◆番外編・ 伐採・製材WS (8/29)		◆広葉樹活用 フォーラム (9/21)			◆Life on the Lake Vol.2 (1/14) 冬のほとり		◆Lab on the Lake Vol.1 (2/9-11) 地域材ハッカソン
	◆交流会 (4/25)			◆番外編・ 獨協大ゼミ合宿 (8/1-3)			◆企画つめ・PR期間		◆交流会 (12/21)		◆Lab on the Lake Vol.1 (2/16) 湖畔の商品開発	
③ リトリートの森			◆社協 職員さん 聞き取り (6/14)			◆自分を識る森の時間 (9/27)		◆農福連携プレーヤーHさん 聞き取り (9/26)		◆東京農大 上原巖先生 森林療法講演・ ワークショップ (1/28)		
その他 森林ビジョンなど	◆他イベントに出展・認知拡大&意見収集						◆安曇野さとぶろ学校 招聘 (10/24)		◆LEAF 森林環境教育 (11/25-26)			◆SHミーティング 森部 (2/19)
						◆上田リバース 藤川さん招聘&まち歩き (9/16-17)						

今年度チャレンジした主な取組内容 - on the Lake -

〈7/8-9 Life on the Lake vol.1 夏のほとり〉



今年度チャレンジした主な取組内容 - on the Lake -

〈7/8-9 Life on the Lake vol.1 夏のほとり〉



今年度チャレンジした主な取組内容 - on the Lake -

〈7/8-9 Life on the Lake vol.1 夏のほとり〉



今年度チャレンジした主な取組内容 - on the Lake -

〈7/8-9 Life on the Lake vol.1 夏のほとり〉



今年度チャレンジした主な取組内容 - on the Lake -

〈1/14 Life on the Lake vol.2 冬のほとり〉



今年度チャレンジした主な取組内容 - on the Lake -

〈1/14 Life on the Lake vol.2 冬のほとり〉



今年度チャレンジした主な取組内容 - on the Lake -

〈1/14 Life on the Lake vol.2 冬のほとり〉



今年度チャレンジした主な取組内容 - on the Lake -

〈7/8-9 Life on the Lake vol.1 参加者の声〉

参加してよかった点

・一番は、木崎湖が自分の中で特別に感じていた理由がわかったこと。

（水田や民家など人の暮らしの営みによって作られる景色が溶け込んでいたから。それは色々な人のお話を聞いて腑に落ちました。）

過去にも、その地域の食材を食べながら座学・交流会..にはこれまでも何度か参加したことがありましたが、その土地が自分の身体に染み込んでくる感覚は初めてでした。

それだけ大町の自然と人を肌で感じられる内容・組み立てであったのだと思います。

湖のそばで暮らす..最高ですね。参加者の皆さんも素敵な方ばかりでした。

本当に楽しかったです！参加させていただきありがとうございました！

・森の話が聞けて移住者の方がつくったお米を食べて、自分がこの景色とつながっていると思った

・東京から勇気を出して来てよかった

こんな企画があったら参加してみたい

・次回は更にはたらくも含めてもっとここの暮らしを体験できることがしたい

・お金を出せば手に入る体験じゃなくてここでしか出来ない体験企画がニッチであればニッチであるほどいい

・お客さんと受け入れ側というよりももっと何かの手伝いに来る（例えば草取り）とか
そんな感じで来たい

・林業体験リベンジ、例の橋掛けやリノベ案件、移住希望者向けおもしろ物件案内、

夜の街そぞろ歩き🍷（駅前が土曜日なのに閑散としていたので応援したい..!）

・秋はキノコ狩り！自分で取ったキノコを食べてみたいです。

今年度チャレンジした主な取組内容 - 番外編 -

〈8/1-3 獨協大ゼミ合宿受け入れ〉



今年度チャレンジした主な取組内容 - 番外編 -

〈8/1-3 獨協大ゼミ合宿受け入れ〉



今年度チャレンジした主な取組内容 - 番外編 -

〈8/1-3 獨協大ゼミ合宿受け入れ〉



今年度チャレンジした主な取組内容 - 番外編 -

〈8/1-3 獨協大ゼミ合宿受け入れ〉

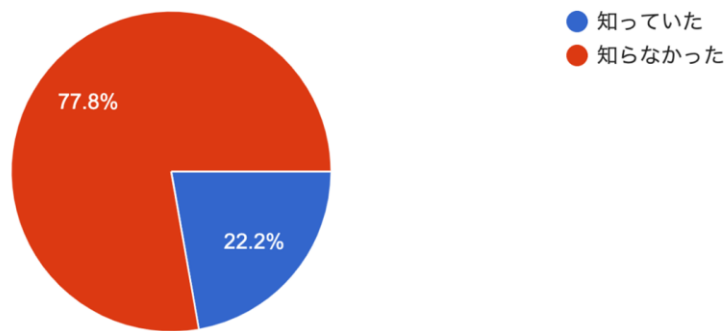


今年度チャレンジした主な取組内容 - 番外編 -

〈8/1-3 獨協大ゼミ合宿受け入れ〉

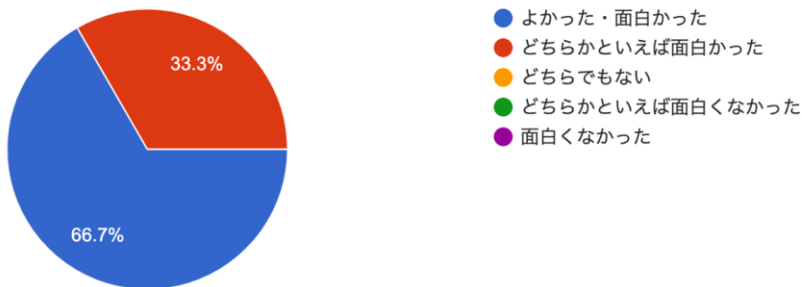
1. 今回合宿に来るまで、大町市のことを知っていましたか？

18件の回答



2. 実際に来てみてどうでしたか？

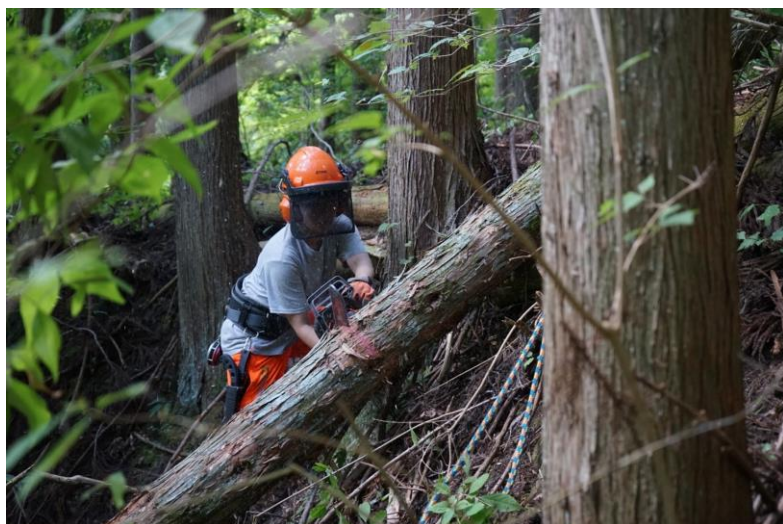
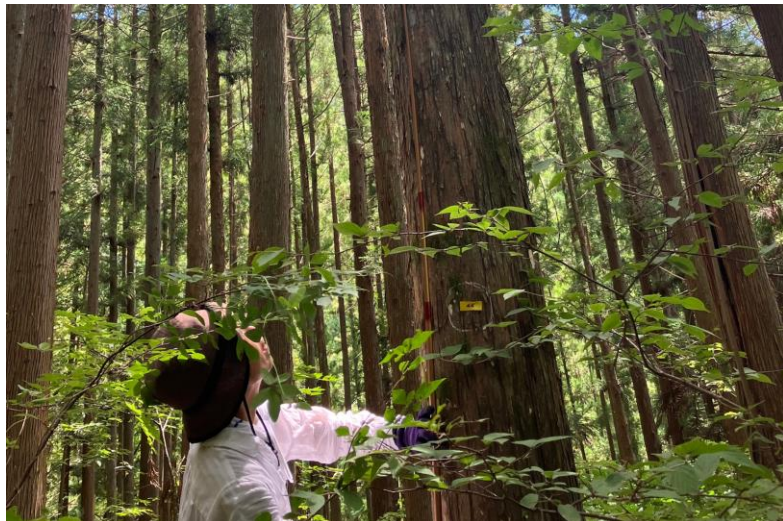
18件の回答



- 景観が素晴らしいのはみんなもかんじたと思うのですが、個人的に良い人ばかりで温かい所だと感じました。空気も非常に美味しく、私は流れ星も見ることができたのでとても良かったです。
- 自然で遊ぶのは普段全くしないからすごい疲れたけどそれ以上に新鮮さが楽しかった
- 森が涼しく、暑いこの時期に癒しを感じたから
- 自然と密に触れ合うことができたから
- 自然が豊富で景色が綺麗なところ、歩いているだけで楽しかった
- 木崎湖
- 自然が好きなので山登りで、新鮮な空気を吸うことができてとても幸せだった
- 都会ではお会いできないような素敵な方がたくさんおられるところ
- まず地元で身近に自然の水に触れる場がないため、木崎湖で遊泳した際にそう感じました。また、水の綺麗さは訪れる前に事前に調べていたこともあって知識に入っていたが、予想以上に水が澄んでいて驚きました。
- 自然が豊かなところや、湖が綺麗で泳ぐことが出来るところ、静かなところなど。
- 自然が豊かで、空気が澄んでいて、水も綺麗だったため。
- 自然が多くて日頃では味わえないリラックスさがあった。
- 多くの自然感じることができたし、あんなにも多くの自然があるうえに湖で遊べるのは、他にはないと思ったからです。

今年度チャレンジした主な取組内容 -地域材流通-

〈木工家のお祖父ちゃんの育てた山の木で工房新設プロジェクト〉



今年度チャレンジした主な取組内容 -地域材流通-

〈12/9 大町市・東京大学・信州大学共同研究 空き家の学校 共催 VUILD井上さんを講師に招聘〉

2023年度
4時限目

空き家の学校
School of Vacant House

大町市・東京大学・信州大学 共同研究

まちと森を繋ぐ アーバン・ファニチャーVol.2

開催概要
大町市・東京大学・信州大学は、空き不動産を地域の資源と捉えた取り組みをまちぐるみで進めています。2018年度より空き家を会場に、未利用資源（空き家や空き地）について学び課題解決を議論する「空き家の学校」を開催し、中心市街地の空き資源を通じた様々なアクションリサーチを展開して、まちなかの小さな変化を積み重ねてきました。
2020～21年には、回避性を生み出し滞留時間を増やす「アーバン・ファニチャー」を製作し、まちの欠けていた機能を補うなど、様々な性格を持つ滞留スペースをまちなかに実験的に設置してみました。この時に活用したのは、大町市の里山にある木材でした。
国産の木材の活用は、今年都市部でも進んでいます。これまでも内装利用や構造材としてはもちろんですが、新たな木材加工技術「デジタルファブリケーション」技術を駆使し、今までにない合理的な造り方や表現も生み出されています。その先駆的取り組みをしているのが、VUILD株式会社です。今回は、井上達哉さんをお招きし、技術のこと、木材利用の可能性、今後実現してみたいことなどお聞きします。
空き家課題の解決に、新たな建築技術はどのように活用できるのか、一緒にきいてみませんか？ なたでも参加可能です。ご参加お待ちしております。

日にち：2023年 **12月9日**（土）

【座学編】

デジタルテクノロジーが変えるまちと森の未来

13時30分～15時30分 森の資源を知る[森歩き] 集合場所@大町市役所
16時00分～18時00分 勉強会@ドットベース大町 ZOOM併用

講師：
井上 達哉さん VUILD株式会社 COO

VUILD株式会社は、デジタルファブリケーション技術を活用した設計施工を行う建築系テック企業です。誰でも簡単にオーダーメイド家具が作れるプラットフォーム「EMARF（エマーフ）」を提供しています。「EMARF」は、ユーザーがオンラインで産地やデザインを選び、家具を自由に設計できるシステム。設計したデザインは、全国30カ所の工務店に導入されている自社開発のデジタル加工機「Shopbot」にオンデマンド出力される。これにより、ユーザーに短時間でオーダーメイドの家具を届けることができる。さらに、ほかでもない中山間地域への「Shopbot」の導入は、マイクロ6次産業化を推進させ、500万円の設備投資と半径10km圏内で完結する“小さな経済圏”を創造することを目指しています。

大町市まちづくり交流課定住促進係
住所 | 〒398-8601 大町市大町3887番地
電話 | 0261-21-1210 ファクス | 0261-23-4304 E-mail | E-mail | teijuu@city.omachi.nagano.jp
主催 | 大町市、東京大学、信州大学 共催 | On The Lake プラットフォーム

予約申込み→





井上 達哉

COO

人生を林業に投資することをライフワークに、VUILDの中で唯一の林学出身者だが、お金やビジネス周りを担当。「正しいより楽しい」をモットーに、マイクロ6次産業化する地域林業の在り方を提唱し、同じくVUILDの山川知則と一緒に、ちょうどいい材木ラジオをPodcastで配信を続けている。

今年度チャレンジした主な取組内容 -地域材流通-

〈12/9 大町市・東京大学・信州大学共同研究 空き家の学校 共催〉



今年度チャレンジした主な取組内容 -地域材流通-

〈12/9 大町市・東京大学・信州大学共同研究 空き家の学校 共催〉



URBAN FURNITURE 01
ぼったりベンチ



コンセプト |
かつて信濃大町が信州と日本海をつなぐ交易の拠点として栄えたころ、町には多くの人が行き交い、道には京町家並りの建物が軒を連ねました。このベンチは、そんな繁栄の歴史を持った道の沿いに新たにできる「TOBIRA」というお店の玄関先に、くつろぎと交流の場所をつくるために設計されました。京町家の軒先に設置される異なった形のベンチで、縦列並としても使われる「ぼったりベンチ」に着想を得たデザインになっています。このベンチが人と人、あるいは人と本が「ぼったり」と偶然に出会うきっかけになれば幸いです。

制作者 |
谷 聡介
東京大学工学部都市工学科 3年



山本 春佳
信州大学工学部建築学科 2年

URBAN FURNITURE 02
本と茶運ぶ お馬さん

制作者 |



安藤 莉央
東京大学工学部都市工学科 3年



松島 匡寛
信州大学工学部建築学科 2年



コンセプト |
ここに来るといつも、背中に本をいっぱい載せて近づいてきてくれる。この子は大町の森で生まれた子どものお馬さん。大町を繋ぎたくさんの方の支えでここまで立派に成長してきました。お馬さんはいっつも「TOBIRA」に住んでいますが、時々「本と茶」を積んでまちへ散歩に出かけます。かつて道の道を荷を積んで走っていた馬のように大町を駆け回り、出会った人に新しい本との出会いと、一杯のお茶と、小さな幸せをお届けします。
お馬さんの名前、募集中です！

今年度チャレンジした主な取組内容 -地域材流通-

〈12/9 大町市・東京大学・信州大学共同研究 空き家の学校 共催〉



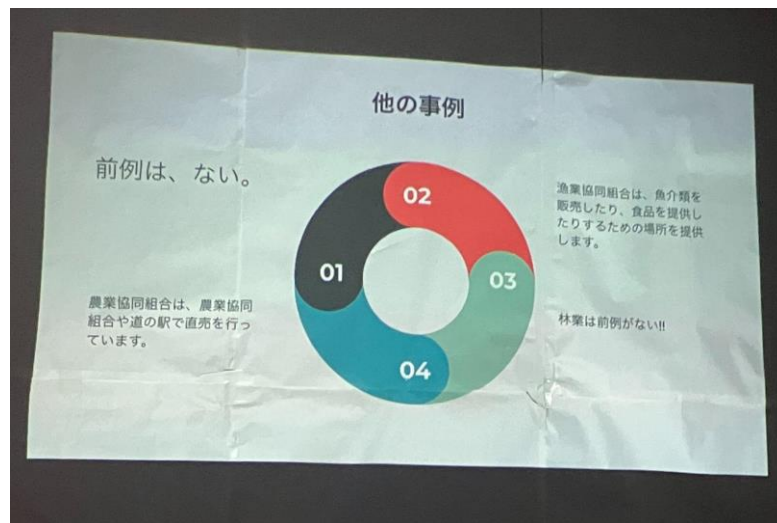
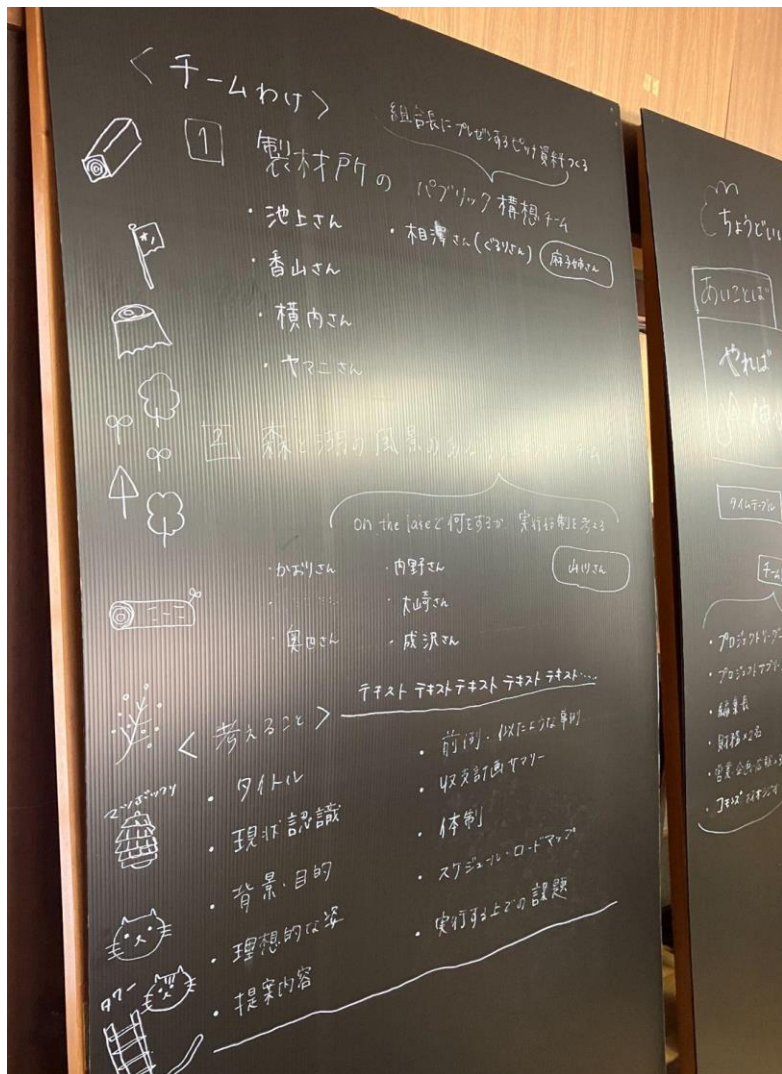
今年度チャレンジした主な取組内容 -地域材流通-

〈2/10 Lab on the Lake vol.1 地域林業とon the Lakeの未来を考えてみる with 材木ラジオ〉



今年度チャレンジした主な取組内容 -地域材流通-

〈2/10 Lab on the Lake vol.1 地域林業とon the Lakeの未来を考えてみる with 材木ラジオ〉



今年度チャレンジした主な取組内容 -地域材流通-

〈木工家 カラマツプロダクト〉



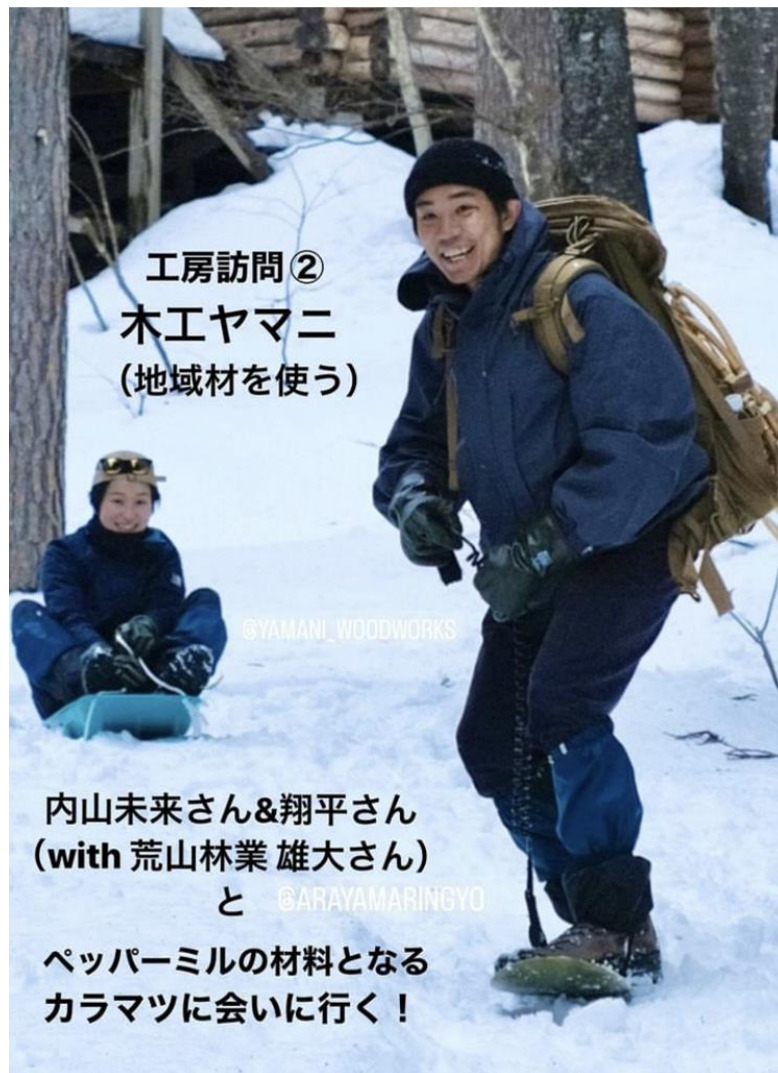
今年度チャレンジした主な取組内容 -地域材流通-

〈木匠家 カラマツプロダクト〉

3/9sat-10sun カゴアミドリ国立店さんにて
地元木匠家と100年生カラマツ
コラボミルを展示販売予定



@kagoamidori
@yamani_woodworks



今年度チャレンジした主な取組内容 -その他-

〈福祉と森 森林ビジョン・上原巖先生 / 自分を識る森の時間〉



自分の居場所ってある？

大町の森林から

参加無料

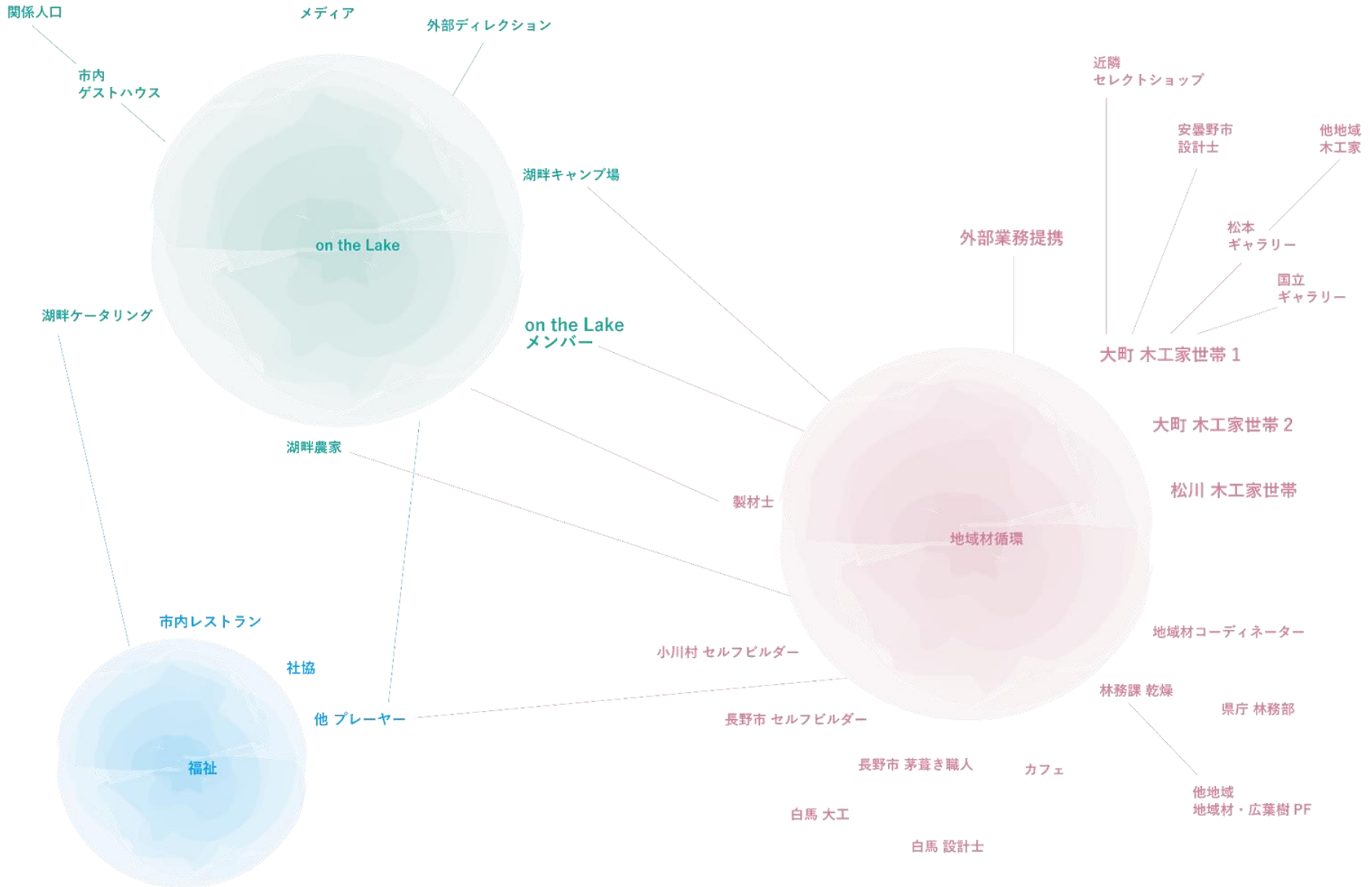
“ウェルビーイング”を考える

《森林療法》の産みの親
東京農業大学・上原巖先生に森と人とのお話を聴く講演会
大町の森から採れた香りのワークショップ + おみやげ付き♪

2024	時間	13:00~16:00 (開場 12:30頃)	会場	サン・アルプス大町 2階大ホール 大町市大町1602-1
1日	主催	みんなの森と水のSDGs未来ビジョン お申し込みはWebページから お願いいたします ▶▶		
28日				



現状の地域プラットフォームと取組を通じての変化



プラットフォーム形成のポイント -苦労したこと、工夫したこと-

それぞれが話していた未来を、話しても大丈夫な範囲で他のプレーヤーと会った時に紹介するなど連携のヒントや選択肢を雑談的によく話した

それぞれのキャラクターを見極める
ツボ押し職人、ムードメイカー、砕氷船
とにかく自分がまず一番がんばる、汗をかく、
努力する
苦手なこと、頼れるものは早めをお願いする
自分のやりたいことを素直にやりたいと伝える

地域のビジョンを描く

- 地域の関係者の話を仲間と共有する
- ありたい未来と現状との差を把握する
- 地域の構造を可視化・言語化する
- 外部にありたい未来を発信し、反応を得る
-

コンセプトディレクションを外部委託で
お願いしたのでズレた時に
立ち戻りやすかった
今年度は事務局も委託先パートナーに
半分持って貰ったが、徐々に地域内で
事務局体制構築したい

仲間を探す

- 地域にどんな関係者がいるかを調べる
- 関係者を訪問し、実際に話を聞いてみる
- 関係者と定期的に情報共有を行う
- 関係者に想いやメリットを伝え、参加の機会をつくる
-

体制を整える

- プラットフォームの機能や取組などの全体像を整理する
- 事務局（マネジメント）機能を設ける
- 自治体の総合計画や政策との関わりをつくる
- 実務的な役割をプラットフォーム内外で分担する
-

全ての項目は
互いに関わり
あっており、
順不同

事業を生み出す

※主に「事業化支援」の
段階で実施する項目

- 事業/事業計画に関する基礎的な情報を提供する
- 事業計画の内容を聞き、ともに考える
- 先進的な事業を学ぶ機会をつくる
- 事業の試行を支援する
-

事業を考える

- 地域へのインパクト（効果・影響）を考える
- すでに地域にある既存の事業を整理する
- 事業の実施主体や支援者を探し、つながる
- 継続的に事業のタネが生まれる“仕組み”をつくる
-

先進的な事業を学びに行くよりも
すでに構築が進んだステークホルダーと
どう進んでいくかの一步を超える方法が必要だった
運とご縁で年度末にその一步を超えるきっかけが
つくれた

立ち上げの昨年度に比べて今年度はコーデ
ィネートの立ち位置をこなせた
最初からこれできたかといえば、自他の
コンセプトとニーズを明確にするには必要
な期間だったと思う

取組を通しての成果と新たに見えてきた課題

【取組全体を通しての成果】

企画を
遂行することで
連携したい人や
ニーズの可視化
が促進された

個々のプレーヤ
ー同士との協力
体制ができた！
それぞれの
ニーズを
つなげる役目も
果たせた

ありがたい未来に
向けて来年度
収穫に向けて
動いていける
ような具体的な
話が起った

【新たに見えてきた課題】

- ・掲げているコンセプトと異なる目的を持った人との距離の図り方や関わりしろ
- ・協力体制はできたが事務局体制はやはり薄い → コンプライアンス等も整備していきたい
- ・これまで初期段階として環境・社会面に置くウェイトが大きかったが、来年度以降はそこに経済面も加えきちんと稼ぐことで持続的な事業を構築し続けたい！
- ・福祉面で閉塞感を感じている子どもや若者への選択肢の提案

1. Lakeside woodman's clubを事業構築し、
経済的に立ち往かない林業のゲームチェンジを目指す
2. そこから派生した湖畔の商品やサービス開発をステークホルダーと開発し、
連動した企画を実施
景色を生み出すプレーヤー達の所得向上も図り、
森と湖の景色が愛され持続している未来を目指す
3. 地域の持続可能な林業と森林を実現し、
美味しい水が飲み続けられ生きづらさを抱える若者や多様な人の
居場所の選択肢を提案する